

優良農家の紹介

「こうべ愛ぴいえむとまと研究会」の取組

組織設立の背景

「こうべ愛ぴいえむとまと研究会」は、神戸市西区で養液トマトに取り組む20～40代の若手3名で組織している。できるだけ化学農薬に頼らない病害虫防除技術（IPM）を研究しようと、2003年10月に研究会を立ち上げ、専門技術員、普及センター等指導のもと天敵や微生物農薬利用の実証を始めたことに端を発し、周辺地域や消費者から注目を集めている。

3名の経営規模は、あわせて施設75aで、年1作の長段どり栽培を行っている。

活動内容

普及センターやメーカーも参加して、月1回、定例会を行ない、以下のことを研究、実践している。

(1) 技術面

各農家が作成したIPMにかかる栽培記録を確認しながらハウスを巡回し、導入技術の効果確認や技術導入の可能性を研究している。また、病害虫の発生状況を報告し合い、今後の対策を検討し、独自の病害虫防除基準の策定、見直しを行っている。

2004年4月には、3名すべてが、天敵農薬や微生物農薬利用技術を実践するとともに、捕虫用粘着テープの展張、防虫ネット被覆などの防除技術を導入するまでに、技術普及が進んだ。

2005年度には、ナトリウムランプによるヤガ類の防除試験に取り組み、合わせて2名が防虫ネットの目合いを1mmから0.4mmに変更するなど、新たな技術を積極的に導入している。

さらに、病害虫に強いトマト栽培技術を修得しようと、施肥面からの技術研究も開始している。（導入技術の内容：天敵農薬、微生物農薬、捕虫用

粘着テープ利用、防虫ネット被覆、光防除技術、循環扇利用、ハウス内の蒸し込みなど）

(2) 販売面

3名とも販売は、直売や量販店との契約販売など多様な販路開拓に取り組んでいる。

2005年度に、ひょうご食品認証を取得し、消費者に対し安全安心なトマト栽培をPRしている。

周囲の評価

西区でトマトやイチゴ栽培に取り組む農家に、天敵利用技術などの情報提供を行い、技術を導入する農家が増加してきた。

また、2006年度にその活動が認められ兵庫県植物防疫協会の優良防除団体表彰（知事賞）を受賞した。

今後は、更なる技術研究と実践に取り組み、モデル活動として地域波及が期待されている。

今後の課題、取組計画

- (1) タバココナジラミの防除対策（黄化葉巻病対策）。
- (2) 0.4mm目合い防虫ネット被覆による高温期のハウス内環境改善。
- (3) 会の趣旨に賛同する新メンバーの加入促進。



図 研究会メンバー 左から稲垣、大西、中村の各氏
岡本 直樹（神戸農業改良普及センター）
（問い合わせ先 電話：078-965-2102）

ひょうごの農林水産技術 No.152

平成19年7月1日（隔月刊）

兵庫県立農林水産技術総合センター（0790）47-2400